

会 議 錄

会議名	令和7年度第4回京田辺市学校教育審議会
日 時	令和7年10月7日（火）午後6時00分から午後7時00分まで
場 所	京田辺市役所3階 305会議室
内 容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1)答申素案 4 その他
出席者	(委員) 10名出席 沖田委員（会長）、小長谷委員（副会長）、関委員、久保委員、宮本委員、大西委員、島谷委員、浦田委員、津熊委員、岩井委員（事務局） 櫛田教育部長、片山教育指導監、古谷教育部副部長、平岡教育総務室担当課長、南部こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、濱本教育総務室企画係長
傍聴者	なし

●議事

(1)答申素案

《事務局から資料 答申素案の内容を説明》

会 長： ただいまの説明について、ご意見や感想をお聞かせください。

委 員： 3点あります。1つ目は、21ページの（3）地域とともにある学校の対応ですが、施設整備だけでなく、やはり学校と地域を結び付けるコーディネーターが必要ではないかと思います。学校の先生は現在業務過多にあると思うので、それを担うのは現実的ではないと考えますと、別に人材が必要と思います。ただし、これはソフト面の話であるので答申に入れるのはどうかと思いましたが、同じ21ページの（4）安全で安心な計画的にメンテナンスされている学校のところでソフト面の話がありましたので、コーディネーターを検討することを付け加えてはどうかと思います。

2つ目は、23ページに「ICT機器の活用と協働学習に対応した必要に応じて拡張できる広い机と椅子」とありますが、椅子には形容詞がないため、従来どおりの椅子のことを指すと感じました。現在の学校の椅子は木の天板が貼ってあって、長時間座るにはしんどいといった意

見があり、座り心地がよいものや高さが変えられるものが良いといった機能面の話が出てきました。答申で機能を特定して具体化するのは難しいと思いますので、例えば、機能面に配慮された椅子とか、そういった形での表現にして、今までとは違う椅子ということを明確にしてはどうかと思います。

3つ目は、24ページの「グラウンドに人工芝」とありますが、このページのイメージ例について質問ですが、こういうことをやりますよということで書かれているのか、それともこういったことをイメージしてやるかもしれませんということなのか、どちらになるのでしょうか。

会長：人工芝は私が言いました内容ですね。私は35年ほど前にアメリカにいましたが、ほとんどの小学校で、人工芝というか、天然芝を敷いていました。また、日本の私学でもグラウンドに人工芝を敷いているところがあります。座ったり、寝転んだりできる、こどもたちの自由空間が広がるという意味で、できれば敷いて欲しいという提案でした。ゆとりと関係しての話ですね。

委員：何事もメリット、デメリットがあると思いますが、こどもに人工芝の意見を聴くと、すごくよいというポジティブな意見が返ってきました。ただし、あまり進んでいないと思いましたので、他市の事例を調べたところ、3つのデメリットがあると言われていることがわかりました。1つ目は暑い日には芝の温度が60度にもなること、これは水を掛ければ良いという意見もありますし、今後は遮熱のものもできてくると思いますが、そういうことです。2つ目は車両が入れなくなることで、ひいては自転車教室等ができなくなることです。3つ目は火気厳禁ということで、うちの地域にある行事「どんど」ができなくなります。全部を変えてしまうとそういった活動が制限されるかもしれないということ。ただし、運動会等をやるときに、前日雨だったらできなかつたものが、人工芝にするとできるようになるかもしれないといったメリットも大きいと思います。メリット、デメリットをきちんと考慮した上で、どれくらいのスペースを人工芝にするのかという検討が必要だと思いました。

会長：アメリカだとほとんど芝であります。また人工芝ですが、車も入れますし、熱くならないようにする工夫したものも、今はあります。その辺で販売されている人工芝ではなく、教育用のしっかりとした人工芝ならば、だいぶ良くなっています。私、昔にラグビーをやりました時に、暑い日で、人工芝もすごく熱くなっていて、火傷したこともありましたが、今は大丈夫です。天然芝と変わらないようなものがあります。

委員：ちょっとそのあたりに懸念がありました。

会長： 人工芝だけでなく、もちろん天然芝でもいいのですが、ケアが大変なんですね。

あと、ちょっと話しますが、アメリカにいた時は、ほとんどが天然芝です。日本に帰ってきた時、学校の方は、芝なんか敷いたらこどもは滑って転ぶので土のグラウンドがいいとおっしゃっていましたが、アメリカの方では、こどもは転ぶものだから芝を敷いて怪我をしないようにしているということでした。2つの考え方があるんですね。本審議会でも視察で京都教育大学附属桃山小学校へ行きましたが、ほとんどが人工芝になって、かなりデメリットを克服されていましたね。

最初の2点については、いかがでしょうか。

事務局： 委員の1つ目のご意見については、ご認識いただいているとおりハード面の議論をしておりますが、(4)のところでソフト面のことも記述されている部分があり、整合したものとなるよう表現を見直したいと思います。

2つ目のご意見については、人工芝の話も関わってきますが、これらイメージ例は答申とは分けた形で考えています。あくまで22ページまでが答申本文です。このたびの答申は今後20年間を見据えてのものであり、答申であまり具体的に書いてしまいますと時代遅れの内容となってしまうこともありますので、基本的な考え方を示すこととしていただいている。椅子の表現につきましては、対応したいと思います。また、人工芝については、必ずしも実現が確約できるとしたものではありません。

委員： よくわかりました。よろしくお願ひします。

会長： 将来的には、こういうことをしていきたいということで挙げられたイメージ例ということですね。

地域コーディネーターの話は、社会教育などで、学社連携で学校と地域が協力してやっていくという話があります。将来的にはやっていく方向になるのではないかと思います。それと、この前にテレビで、日本の先生は世界で一番長時間労働をされているとありました。非常に忙しい先生方の教育を手助けするコーディネーターがいるのは大事だと思います。

はい。他にございませんでしょうか。

委員： 2ページの(1)ICTの進展と急激に変化し続ける社会の最後のところで、集団生活を通じてという部分がありますが、しっくりこない。学校は集団生活であるので、今更当たり前すぎる。もしくは、バラエティのある集団のことを指しているのでしょうか。

続いて、全体的に、どこのページということではないですが、AIについて触れられていないことが気になっています。

それから、11ページの（1）の①新しい時代の学びを支える学習環境の整備の第2段落目、「これらを実現するために何が必要かを尋ねると、主な意見は、教育内容を時代に合わせて充実させること」と書いてありますが、第1段落をみると、キャリア教育を重視するような教育内容になると思いますが、例えば、少人数教育の実施であるとか、特別支援教育の充実といったことは、果たして教育内容に当たるのかなということで、もう少し、教育内容を広く捉えるようにした方がよいと思う。

14ページ以降はアンケートなのでアンケート項目に沿って書かれたのだと思いますが、その後、17ページの3 学校施設の課題については事務局側でまとめていただいたものだと思いますが、①新しい学びへの対応で「・リアルな学びとバーチャルな体験ができる学習環境が十分にない。」とありますが、ここでの体験というは何なんだろうとひっかかりました。情報を活用していくというのは今求められていることなんですが、体験はどうなんだろうと。

それから、先ほど、人的なことを言わされましたか、ちょっと発言すべきか迷ったんですが、②多様な背景や特性のある児童生徒への対応の3つ目の「保健室以外に相談対応できるスペースが十分に確保されていない」ところに、スタッフというのを入れた方が、あった方が良いと思いました。

18ページの④生活・安全面の最後の項目ですが、「オンライン研修やオンライン会議が同時期に重なる場合に対応できる」ということは、実際にあるのかなと思いました。会議室が別にあるはいいだろう、その理由としてオンライン研修もいいだろうと思いますが、同時期に重なるというのは言い過ぎではないかという感じがしました。

あと、これは書いていないのですけれども、17ページの②に書かれるものだと思いますが、空間を親しみやすい、居心地の良いところに変えていくという視点があると良いと思いました。ゆっくりできるスペースというのはあるのですけれども、これまで私たちのグループで話していたのは、ちょっと冷たい無機的な教室空間について、温かみのあるような、例えばカフェのような言葉も出していましたが、温かみのある言葉があるとありがたいなと思いました。

最後に、23ページの3Dプリンターはいるのかなと思いました。以上です。

会長： はい、ありがとうございました。たくさんのご指摘をいただきました。順番に整理していきましょう。

事務局： たくさんご指摘をいただきました。事務局の方で整理しまして、まとめていきたいと思います。

会長： A.Iはどうですか。

事務局：確かにＩＣＴのことは書いてありますが、ＡＩが進展している中で、あまり触れられていないというのは違和感があると思いますので、含めた形でまとめていきたいと考えております。

会長：リアルな学びとバーチャルな体験はどうでしょうか。

事務局：体験の部分が引っかかったとのことですので、修正したいと思います。リアルとバーチャルが融合した形で、他の学校とインターネットを介して交流する等の学習空間が十分ではないことを想定しておりました。意見聴取のところはご意見のとおり、アンケートの結果を紹介しております。3Dプリンターにつきましては、今後そういった最新の機器も必要ではないかということでイメージできるよう挙げておりました。

会長：先ほどの教職員のオンライン研修やオンライン会議はどうでしょうか。

事務局：これは、意見聴取した際に意見がありまして、最大5つ重なったことがあり大変だったという声から挙げたものでございます。

会長：オンライン研修やオンライン会議ができる会議室で良いのではないですか。シンプルに。

事務局：はい。

会長：いかがでしょうか。

委員：それでよいと思います。現在、教員はタブレットを持っているので、どこでも研修や会議をできるので、ことさら会議室がたくさんいるというわけではないと思います。1つあればよいのではないかと思います。

会長：そのほか、いかがでしょうか。

委員：地域とともにある学校のカテゴリーになりますが、学校と地域の関わり合いについて考える中で、防災という観点を、ちょっと忘れていたなと思っています。学校は避難所になっているし、これから何があるか分からない自然状況なので、川もあるし、水害とか、地震とか、学校が避難所になることを思うと、体育館が使われると思います。体育館は今、空調が整備されようとしており、大事だと思いました。もっと、体育館が避難所になったときの使いやすさであるとか、長く避難所になってしまった時に、学びとして本来使うべきところが使えなくなって、こどもたちが困ったというのは東日本大震災の時にすごく起こっていましたので、そういった学びを確保するための施設という観点も必要ではないかと思いました。これから20年先となると。京田辺市は幸いなことにこれまで大きな災害がなかったので、実際に避難所がどのように長期で運用されるかというような経験はないと思いますが、そういう場合のことを考えて一文を盛り込んでおいた方がよいのではないかと思いました。

会長： いかがでしょうか。

事務局： こちら22ページの地域とともにある学校は、地域との連携で学校の教育力の向上を図るというような取組というものです。今、委員がおっしゃっていただいた防災、そして学びを確保していくという観点は重要ですので、どこかに追記できないかを検討してまいりたいと思います。

会長： そのほか、いかがでしょうか。

次回は、ほぼ完成に近いものができるまでできまして、字句等の確認ということになるかと思いますので、よろしくお願ひします。

委員： 20ページの（2）ゆとりのある学校の2行目に、「自然と触れ合える交流の場」というところがありますが、この自然というのが、最初ネイチャーのことだと捉えて、そういう自然なら素敵だなと思ったのですけれど、よく読むとナチュラルに触れ合えるというのが正しい読み方になると思います。ちょっと、ここは意味が取り違えやすいと思います。

今、だいぶと校舎内の空間整備や学校設備のことについて議論していますが、今後プールの跡地利用も考えていくことで、そういった自然、校舎外の空間ということも、このゆとりのあるところに加えていただいてもいいのかなと思いました。

事務局： 委員のご意見につきましては、誤解の無い表現に直したいと思っております。

会長： 跡地利用等については。

委員： ゆとりのある学校の中に、ネイチャーの自然を考慮していただけたら良いと思います。

事務局： 考慮します。

事務局： 1点、確認させていただきたいことがございます。先ほどの災害時の学びのご意見でございますが、学びの場所の保障というようなことは、つまりは学校に行って避難できる場所を確保していくというような話であるのか、避難者を受け入れながら、学習機会をどう確保していくかという話であるのか、どちらになるでしょうか。

委員： 後者です。特に部活動とか全くできなくなってしまうことがあったりして、普段行われている学習活動が空白無く維持できるようになればいいなと思いました。教育部署だけではなんともならない話だとは思いますが、避難という形がどういう形であっても、こどもたちが学んでいる場というものを柔軟に確保できればと思います。その場所でやらなければならぬこともありますし、近隣のところにこどもたちが出来ていってやる形もあるかと思いますし、そういう機会、体験、学びをすることは止めたくないということで意見させてもらいました。

事務局： 地域とともにある学校の中であれば、例えば、そういうときに柔軟に地域の中でそういう場所を確保していくためにもしっかりと結びつきを持っておくということなのか、そういうことを想定した避難所として、空いているときは運動活動をこの場所でするといったことを決めておくほうがよいということなのかどうでしょうか。

委 員： グループで討議したときも、体育館は大小2ついるのではないかという話がありました。学校としては、多様な学びというところで、柔軟に色々と切り替えができる施設を考えていただいているので、コロナ禍でもできるような学校づくりがいいのではないかと思いました。

事務局： 体育館ほど広くなくても、体育の授業ができるくらい、普通教室よりも広い、多目的に使えるスペースというのを確保できればということでしょうか。

委 員： 体育に関しては良いかと思います。色々な人が出入りすることで、子どもたちが学ぶことも多いし、逆に普段できることがどうしても制約されることもありますので、それを施設というハード面を変えていくことで、なんとか途切れず、維持していくことができればと思っています。

会 長： 学校が災害時の避難所になった場合の児童の学習を保障するような方向性も考えておくべきであるということですね。具体的にどういう建物というものではなくて。実際、色んな地域で学校は避難所指定されていますね。それでは、災害が起ったときに、それまでの通常の学習をどうするのか、保障するべき手立ても考えておくべきであるというご提案ですね。

委 員： そうです。

会 長： 具体的に建物を作れということではなく。

委 員： そうです。今年の夏もとても暑かったので、子どもが遊ぶ場所がなくって、家の中にこもっていましたよね。そういうときに、地域との交流という意味で、学校施設が一つの場所として、冷房の効いた体育館を開放できるような形、地域と施設のつながりというシステムも大事なところかなと思います。

事務局： わかりました。

会 長： そのほか、いかがでしょうか。

委 員： 19ページの未来思考の視点の④のところに、「関係者が」とあります、国の視点でありますが、ぜひ、そこの学校の子どもも当事者として参画できるような仕組みといいますか、実際に何かするときは、声を聴いて欲しいなと思います。これは明記うんぬんかんぬんということではないですが、要望として挙げておきたいと思います。

会 長： よろしいでしょうか。関係者には、当然、児童生徒、地域も入ります

ね。そのあたりは文言の表現をよろしくお願いします。

会長：いかがでしょうか。だいたい出尽くしましたでしょうか。
ありがとうございます。

それでは、皆様のご意見につきましては、素案に反映させて、答申案として次回の審議会で確認したいと思います。

会長：それでは、全般に関しまして何かありましたら、お願いします。

ありがとうございます。
本日の議事については、以上となります。

●その他

《事務局から今後の審議会の予定について連絡》

(以上)